

保育目標	評価・反省	次年度に引き継ぐこと
<ul style="list-style-type: none"> ・健康で明るい子どもの育てる (病気をしない体づくり) ・食に関わる体験を積み重ねる ・心と心が通いあう挨拶をする ・地域との関わりを大切にする ・自然の移り変わり(四季)を十分に味わう ・思いやりの心を育てる ・素直に自分の気持ちが言える子どもにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月下旬から2月中旬にかけてインフルエンザが流行したが、それ以外は健康に過ごしている。しかし、3歳児を中心に、転んで鼻を打撲する子が多かった。 ・畑の収穫物、旬の食材を意識的に子どもたちに触れさせ、味あわせることができた。食の体験と共に、四季を味わうことができた。家庭ではできない体験をたくさんさせたい。 ・縦割り活動、地域との関わりで、人を思いやる気持ちが出てくるよう、「ありがとう」という感謝の言葉が自然に子どもたちの口から出ている ・地域との関わりでは、赤間駅前カムカムまつり、赤間西地区コミセンまつりに参加している。また、城ヶ谷区福祉会との交流や高齢者施設の訪問も継続してできていて、子ども達にもいい経験になっている。 ・梅を一年間観察することにより、変化を感じとり、それからまた違う自然に目が向けられるように少しずつつながっている。 ・各クラスに支援が必要な子どもがいて、他児とのかかわりもスムーズにできている ・経験したことを、楽しかった、怖かった、うれしかった等、気持ちを表現し、言葉に出すことができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何故、鼻を打撲するのか原因を考え、繰り返さないように検証していきたい。 ・意識的に体験させていかないと伝わらない事であり、職員が自然や食材等を敏感に感じとって子どもたちに提供していく。 ・縦割り活動や地域との関わりのように異年齢の人とのかかわりは良い経験になるので継続することが大事 ・地域の行事は例年のものは継続して、新規のものは子どもたちの負担にならないように配慮して取り組む ・来年度は、5歳児を中心に園庭の自然を活用した自然研修を講師を招いて年間取り組む予定より自然に目が向けられるようにする ・支援が必要な子も一人一人の個性をいかせる保育に取り組んでいきたい ・その時感じたことをまず保育士が言葉にだし、それが子どもたちに伝わっていきけるようにしていきたい